

近世の農民生活と騒動



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 検地と貢租

第一節 検地と貢租

一 真田氏の天正検地

貫高制とは 真田氏の天正検地

二 貫高制の存続と変質

秀吉が推進した石高制

貫高制に固執した真田氏

仙石氏・松平氏と貫高制

第二節 貢租の率（俵代）と枿

一 真田氏の貫高制と貢租

真田昌幸の貫高制

年貢七俵代と上田枿（大枿）

百姓欠落と還住策

入下と引分

目次

二	仙石氏時代の貢租……………	17
(1)	村高……………	17
	真田氏から仙石氏へ……………	
(2)	仙石氏の年貢収納施策……………	17
	年貢割付状から入下をなくす……………	
	寺社領などの免分を半減……………	
	仙石氏時代の米納め……………	
(3)	榎と俵……………	19
	京榎 京榎と大榎……………	
	蔵前の大榎……………	
(4)	年貢の率と田畑の調査……………	21
	「ならし」と承応の貫高御帳……………	
	一貫当たりの新俵代Ⅱ定代……………	
(5)	地方知行制……………	23
	給入へ年貢を納める……………	
三	松平氏時代の貢納……………	23
(1)	松平氏の収納施策……………	23
	米納めになる……………	
	定免と当代……………	
	御下ケ札……………	
(2)	金納による百姓の負担……………	25
	金銭で納める……………	
	米相場と金納値段……………	
	豊凶からみる相場米……………	
第三節	貢納の実際……………	27
一	年貢納入の手順……………	27
	村役人・割審の貢納準備……………	
	年貢免相……………	
	百姓へ割り付ける……………	
	年貢の納入……………	
	御物成上納通（年貢領収書）……………	
二	貢納米の増減……………	30
	耕地の減少……………	
	災害の影響……………	
三	増徴に抵抗した農民……………	31

夫役と小物成
小物成の割り付けと納入
国役金

第一節 ため池の築造……………43

塩田平のため池 水を得る苦勞とため池への願い 築造へ向けた下準備 池普請「たんれん」の庄屋たち

築造を指揮した人びと
丁場割からみたため池の築造

ため池を維持する苦勞
小さなため池を維持する苦勞

上田地方のため池の築造と改修
天保の飢饉と山田池
西前山の空池
まぼろしの二つ木新池

上田市内の堰
山崎堰と流域の村
吉田堰と流域の村
ため池の堰
水が流れない長池新堰

第三章 農民のくらし

第一節 農民の生活 71

一 村の取り決め 71

村定 極秘の取り決め

二 衣食住の高まり 72

すまい 家屋の規模 火事からわかる家の広さ 衣料 食 農家の収入

三 農村の一年 78

年間の定例「遊び日」 祭礼 村を訪れた人びと 旅と遊山

四 村人の一生 81

子どもの祝儀帳 病氣 若者仲間議定書 若者組解散禁止令 縁女送り 婚礼祝儀帳 離縁

養子相続 御悔帳 家の財産と相続 家のきまり 褒美

第二節 農業技術の進歩 88

一 宝永三年『上田藩村明細帳』（「差出帳」）に見る農業 88

『上田藩村明細帳』（「差出帳」） 宝永期の農作物 畑作

二 農業経営 89

農事暦 種粃名称 刈敷 農具

三 農作業と天候 92

雨乞 明和七年の雨乞

四 近世の時間・生活のリズム 93

第三節 村役人と身分	94
------------	----

一 村役人と農民	94
----------	----

組制度と大庄屋・割番	村方の三役人	本百姓と水呑百姓	被差別部落の人々
二 褒賞と農民	97		

藩財政の窮乏と褒賞制度 格式と農民

第四節 土地と農民	99
-----------	----

一 農民の土地所有	99
-----------	----

村々の本田と新田 土地所有の様子

二 農民の山林所有	102
-----------	-----

村々の私有林 山林所有の様子

三 農家の経営	103
---------	-----

舞田村と北条家 北条家の経営

第四章 災害・飢饉

第一節 水害	109
--------	-----

一 千曲川の洪水	109
----------	-----

多発する水害

二 戊の満水	111
--------	-----

三	戊の満水以後の水害……………	115
	宝暦以降の水害大雪……………	
	天保十三年蛭沢川矢出沢川洪水……………	
	幕末の水害……………	
四	復旧工事……………	118
	藩の借入金と復旧工事……………	
	大屋橋刎橋……………	
第二節	凶作・飢饉・疫病……………	121
一	凶作・飢饉……………	121
	凶作と飢饉……………	
	元禄と享保の飢饉……………	
	寛延の飢饉……………	
	宝暦明和の飢饉……………	
二	天明・天保の飢饉……………	123
	天明の飢饉……………	
	天保の飢饉……………	
	上田藩の措置と救恤……………	
	越後米買人……………	
	藩財政の窮乏……………	
第三節	天災地変・火災……………	130
一	天災地変……………	130
	浅間山大焼け……………	
	上田を襲った地震……………	
	弘化大地震と上田……………	
	川中島上田領の被害……………	
	横死塚と善寺……………	
	寺大地震図……………	
	その後の地震……………	
二	火災・消防……………	135
	享保の大火……………	
	御屋形焼失……………	
	房山と鷹匠町大火……………	
	江戸時代の上田の消防……………	

第五章 宝曆騒動と藩の対応

第一節 上田藩で起きた百姓一揆	141
-----------------	-----

百姓一揆とは 上田藩で起きた百姓一揆

第二節 宝曆騒動	142
----------	-----

一 宝曆騒動の経過	142
-----------	-----

五つの階段 つのる農民の不満 全藩惣百姓の強訴 打ちこわし 岡部らの対応と主謀者の逮捕

取り調べ・収拾・処罰

二 宝曆騒動の原因	151
-----------	-----

一八世紀中ころの社会 災害やぜいたくで藩財政が窮乏 検見での増税と松井田相場

三 農民らの要求	156
----------	-----

農民の要求 町民らの要求

四 藩の対応	158
--------	-----

藩役人の改替 百姓の要求をほとんど呑む 騒動首謀者の探索と仕置き 藩士への対応

五 桂覚右衛門の「小惣録」「私議政事録」から	163
------------------------	-----

小惣録私議政事録 原因は佞臣ののさばり 勘定高く無気力な藩士 政務は民を憐れむ事が第一

藩士の意識を立て直すべき

六 農民の成長	166
---------	-----

藩政は仁政を 不正の除去を要求

目次	第三節 越訴と世直し騒動……………	167
----	-------------------	-----

天明四年の磯之丞の越訴	文化六年の勇吉の越訴	明治二年の世直し騒動
-------------	------------	------------

第六章 宗門改め

第一節 宗門改めの実際……………	173
------------------	-----

一 キリシタン禁制と宗門改め……………	173
---------------------	-----

幕府の政策	上田藩の宗門改め
-------	----------

二 「宗門改帳」に書かれていること……………	174
------------------------	-----

書式と体裁	名前の傾向	旦那寺	寺請文言と村役人文言
-------	-------	-----	------------

三 「宗門改帳」作成の手順……………	178
--------------------	-----

作成までの日程	記載までの準備	必要な帳面の数々	宗門改め当日	御条目	塩尻組における特例
---------	---------	----------	--------	-----	-----------

宗門改めの際の上判	村人たちのかかわり	役人たちへのご馳走	買物帳から
-----------	-----------	-----------	-------

第二節 「宗門改帳」と人々……………	185
--------------------	-----

一 人々の動向……………	185
--------------	-----

通婚圏	離婚した人たち	奈良尾村の帳外者	塩田組の帳外者	帰郷令
-----	---------	----------	---------	-----

二 人口の変化……………	189
--------------	-----

上塩尻村の人口動態	八木沢村の人口動態	「宗門改帳」の家数と実際の家数	岩下村の場合
-----------	-----------	-----------------	--------

八木沢村の場合	年齢構成図から	結婚年齢	死亡
---------	---------	------	----

第七章 入会と山論

第一節 入会のようす	197
------------	-----

一 入会山	197
-------	-----

入会

二 入会の慣行	200
---------	-----

入会の成立	山札制度	馬札・歩行札	山の口	平井寺山の刈り方規定	御林の下草刈り
-------	------	--------	-----	------------	---------

田の肥料

第二節 山論	209
--------	-----

一 多発する山論	209
----------	-----

山論	細尾山の出入	野倉山山論	田沢山山論	上室賀山の山論
----	--------	-------	-------	---------

二 江戸出訴になった山論	214
--------------	-----

(1) 太郎山の山論	214
------------	-----

袖山の出入	江戸へ出訴	裁許
-------	-------	----

(2) 上塩尻浦山の山論	217
--------------	-----

出入の発端	松代へ出訴	江戸出訴	論所の検分	上塩尻の勝訴
-------	-------	------	-------	--------

執筆分担

参考文献

あとがき

上田市誌の編さん組織

『上田市誌』全三二冊の編成と書名

表 紙

稲倉の棚田（標高六五〇mから九五〇m、勾配は一〇mで一
―二m上がる。標高・勾配・日照・水もち、どこからみても
当時の技術の限界を超える。それでも農民は耕した）

裏表紙

「たはらかさね耕作絵図」（福岡市立博物館蔵・『朝日百科日
本の歴史を読み直す』から転載）

上田市誌 歴史編(9)

近世の農民生活と騒動

発行 平成十五年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇